

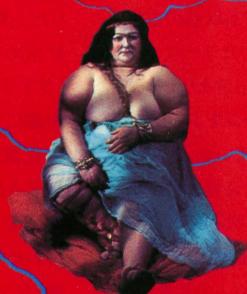
追悼 フェリーニ

# サテリコン

"FELLINI SATYRICON"



- 監督・脚本 フェデリコ・フェリーニ
- 脚本 ベルナルディーノ・ザッポーニ
- 撮影 ジュゼッペ・ロトゥンノ
- 音楽 ニーノ・ロータ
- 美術 ダニロ・ドナーティ
- 1969年 / イタリア・フランス合作  
カラー シネマ・スコープ / 129分
- 配給 ACT



タブーは無い!  
伝説のサイケデリック・スペクタクル。



追悼 フェリーニ

# サテリコン

## "FELLINI SATYRICON"

- 監督・脚本 フェデリコ・フェリーニ
- 脚本 ベルナルディーノ・ザッポーニ
- 撮影 ジュゼッペ・ロトゥノ
- 音楽 ニーノ・ロータ
- 美術 ダニロ・ドナーティ
- 編集 ルツジェロ・マストロヤニ
- 製作 アルベルト・グリマルディ
- 出演 マーティン・ボター、ハイラム・ケラー  
マックス・ボーン、マリオ・ロマーニョリ  
マガリ・ノエル、アラン・キューニ  
サルヴォ・ランドーネ、ファン・フッラ
- 1969年ヴェネツィア国際映画祭批評家賞受賞
- 1969年 / PEA(伊)+レ・サルティステ・アソシェ(仏) 作品  
カラー / シネマ・スコープ / 129分
- 配給 ACT



目くらむイタリア古典美術。  
毒の血で染めたローマ禁色の花！  
—— 淀川長治

帝政ローマの迷宮を抜け、涼しい  
風を受けた男達の上気した頬。  
魂は上昇気流で昇ってゆく。  
—— 唐 十郎



■1969年、ヒッピー・ムーブメント全盛期のアメリカ。マジソン・スクエア・ガーデンで行われたあるロック・コンサートの後、1本の映画がプレミア上映された。史劇スペクタクルの形をとりながらも、当時のサイケデリック・カルチャーをも凌駕するような幻惑的映像美と過剰なパワーに溢れたその作品は、会場を埋め尽くした1万人もの若者達を熱狂させた。その作品こそが「映像の魔術師」フェデリコ・フェリーニの『サテリコン』だったのである。

■原作は暴君ネロの寵臣ペトロニウスが、キリスト教的倫理が浸透する以前の古代ローマの享楽と退廃を描いたヨーロッパ最古の小説「サテリコン」。フェリーニは原作から自由奔放にイメージをふくらませ、独自の夢幻世界を創造している。デカダンスな喧噪に満ちた饗宴。奇怪な阿片窟。両性具有の神の子。砂塵吹き荒れる牛頭人の迷宮。妖艶な美女達の快樂の園。美少年をめぐる恋敵である2人の若者を狂言廻しにして、次から次へと展開されてゆく鮮烈な映像美と圧倒的なエネルギーに満ちたシーンの連続。古代世界を舞台とすることにより、フェリーニの豊潤なイマジネーションは、ここに最も壮大なスケールで自由かつ大胆に映像化されている。加えて、フェリーニ作品に欠かせないニーノ・ロータの音楽は、アフリカンミュージック・ケ

チャ・般若心経・電子音楽などを取り入れたアバンギャルドなフィルム・スコアで、作品の持つ映像トリップ的な魅力をより一層強めている。

■当時フェリーニは作品の製作意図を次のように語った。「ペトロニウスの描いたローマの姿は、貪欲なまでの生活の楽しみ方から、道徳観やイデオロギーの欠如、絶望感、そして暴力に至るまで、驚くほど現代社会に酷似している。主人公の2人は、あらゆる体制に背を向け、義務感を持たず刹那的に生きる現代のヒッピーにそっくりだ。」既成の秩序や価値観からの解放が求められていた60年代末。若者達は『サテリコン』の映像美に心酔すると共に、全編に溢れる倫理やモラルを超えた人間の根源的生命力、そのバイタリティーに魅了されたのである。フェリーニが意図したように、彼らはそこに自分達の姿を重ね合わせていたのだろう。

■『サテリコン』の製作年代から1/4世紀が過ぎ、フェリーニはこの世を去った。しかし、その作品は不滅である。巨匠フェリーニがシネマ・スコープの大画面一杯に、人間の始源的姿を絢爛たる映像美で描いた大壁画『サテリコン』。それはこの90年代に新たな息吹を吹き返したエネルギーギッシュな衝撃の映像体験なのである。

4月22日(金) より公開

1:00 3:30 6:00

但し 4/29-5/8は 1:00/3:30の回なし  
5/28は 6:00の回なし

ACT・SEIGEI-THEATER

池袋・西武デパート並び 03-3983-9756

配給ACT  
創立20周年

一般 1,700円  
学生 1,400円  
前売 1,300円

6月11日(土) — 6月30日(木)

1:45 4:15 6:45

<7/1より AM10:00 モーニングショー>

ACTシネマテーク

上本町・近鉄劇場ななめ前 06-775-4321

東京

大阪